

ごみを活かし、 新エネルギーに変えましょう

子や孫にいい地球環境をバトンタッチするために、いよいよ私たちも行動を開始する時が来ました。全国の自治体がいろいろな挑戦を始めていますが、三豊市もごみを活かし、新エネルギーに変えるための行動を開始します。

その前に、すでに分別を徹底している地域の皆さんから「せっかく家庭で分別しても、収集した先ではごちゃまぜにして焼却しているのではないか」という疑問の声を聞くことがあります。分別したものは、それぞれの処理方法を経て、きちんと<再資源化(リサイクル)>されています。

プラスチック製容器包装(廃プラ)は 石油や石炭の代替エネルギーに

プラスチックは、今や高カロリーの有効資源です。食品トレイやシャンプー容器などのプラスチック製容器包装を現在分別しているのは、山本町と詫間町と三野町です。

現在、プラスチック製容器包装は、民間企業で工業用の固形燃料に処理され、石油などの代替燃料として利用されています。化石燃料や地下資源



製造された固形燃料(RPF)は、製紙工場のボイラー用燃料に使われています

が急速に減っている現代社会では、貴重な高カロリーの燃料です。プラスチック製容器包装の分別に、みんなので取り組みましょう。

古紙は段ボール箱や印刷用紙などの 「紙」の原料に

新聞や雑誌、段ボールなどは、私たちの日常生活で大量に利用している紙類です。

今、新聞や雑誌、段ボールなどの分別収集は、仁尾町と財田町が合併前から定期的に行政回収を行っているほか、その他の町でも、地域ごとに年数回PTA組織や自治会などでリサイクル活動として収集されています。このリサイクル活動は、地域コミュニティの活性化や環境について学ぶた

めの貴重な活動資金となっています。

古紙は、価格が変動しますが、新聞2〜6円、段ボール1〜4円、雑誌1〜2円、牛乳パック5円程度(すべて1キロあたり)で古紙回収業者に買い取られ、製紙会社で紙原料としてリサイクルされています。



リサイクル活動の様子

いまや古紙は、世界市場では不足しています。新聞や雑誌、段ボールなど紙類を分別しましょう。
布類は古着や加工繊維などに

布類については、仁尾町が合併前から定期的に行政回収を行っているほか、主には紙類のリサイクル活動と合わせて収集されています。

集められた布類は業者に引き取られ、古着として再利用したり、衣類の繊維をほぐして糸や綿に加工して、自動車の内張りや建築資材・防音材などに使用したりしています。

生ごみはたい肥化して家庭用肥料に

生ごみが、三豊市の家庭ごみの大半を占め（約36%）、焼却に最も多くの燃料を必要としています。家庭から出る生ごみを焼却し始めて50年ほどですが、生ごみは水分を多く含み、水を燃やしているようなものとも言われます。

全国でたい肥化に取り組んでいる自治体は、すでにたくさんあります。まず、家庭で処理できないかやってみましょう。

コンポストEM菌処理では、良い家庭用肥料ができます。また、電気式生ごみ処理機の設置者は、2万円を限度として市から補助金が出ます。これも家庭菜園に良い肥料ができます。

そのほか、市民の皆さんに分別をお願いしている缶類やペットボトル、びん類などもそれぞれ再資源化されています。



ペットボトルは圧縮梱包したあと、民間業者に売却しています

分別はごみを活かす取り組みです

いよいよ三豊市もごみを新エネルギーと考えて、ごみを活かすための分別を市民の皆さんにお願いする時が来ました。



ごみも分別すれば資源に

今までのコーナーで申し上げてきたように、住みやすい地球環境を子や孫に引き継ぐための行動を開始する時が来ました。

18品目の分別となりますが、市内でも進んでいる地域では、同様の分別がすでに実行されています。開始した時は、少しわずらわしさがあるかもしれませんが、必ず習慣になります。私たちだけが便利で文化的な生活を楽しまず、後の世代のことも考えて生活の流れを変えましょう。

今までのこのコーナーは私（市長）が書いてきました。今後は環境衛生課で分別を中心として詳しく報告説明していきます。引き続きご愛読ください。

（文責 三豊市長 横山忠始）

今回は、環境衛生課より「ごみの新しい分別」についてお知らせします。

「ごみの分別の手引き」ができました



10月から市内統一のごみ分別が始まります。市民の皆さんがごみを出すときに、どのように分別したらいいのかイラストや品名別の索引を設けてわかりやすく説明しています。

「ごみの分別の手引き」は、今月号と合わせて各家庭に配布しています。ごみを分別するときに、ぜひご活用ください。

問い合わせ 環境衛生課 73・3007

